

# 第1章 計画策定の目的

## 1.1 目的

本市の水道事業は昭和27(1952)年に、計画給水人口20,000人、計画1日最大給水量4,000m<sup>3</sup>/日で給水を開始しました。その後は給水量の増加や浄水処理の高度化等を目的として、6次にわたる拡張事業を実施してきました。

令和2(2020)年には、市域に点在する24の簡易水道<sup>\*1</sup>施設を水道事業に統合しました。

現在は令和13(2031)年度を目標年度として、計画給水人口48,200人、計画1日最大給水量27,100m<sup>3</sup>/日で事業を実施しています。

また、本市は24箇所の給水施設<sup>\*2</sup>を有しており、水道事業と同様に適切な維持管理を行っています。

近年、水道事業運営を取り巻く状況は大きく変化しており、人口減少により料金収入が減少する中、1970年代の高度経済成長期(水道普及率上昇期)に整備された水道施設<sup>\*3</sup>の更新需要の増大、激甚化する地震等の自然災害への対応を目的とした施設機能の向上、維持管理体制や危機管理対応等の様々な課題と適切な対応が求められます。

このような状況を踏まえて、厚生労働省では、平成25(2013)年3月に「新水道ビジョン」を策定し、水道水の安全な確保を「安全」、確実な給水の確保を「強靱」、供給体制の持続性の確保を「持続」と表現し、これらの3つの観点から施策を掲げています。

本市においても今後の事業環境はますます厳しくなると想定されることから、適正かつ効率的な事業運営を実施するため、長期的な視点から「本市水道の理想像」を示すものとして「日田市水道ビジョン」を策定します。

---

\*1 簡易水道：給水人口が101人以上5,000人以下の事業。

\*2 給水施設：給水人口が100人以下の事業。

\*3 水道施設：水道を供給するための取水、導水、浄水、送水、配水の各施設

## 1.2 計画の位置づけ

日田市水道ビジョンは、厚生労働省の「新水道ビジョン」、大分県の「大分県水道ビジョン」、本市の最上位計画である「第6次日田市総合計画」を上位計画とし、日田市水道事業アセットマネジメント計画、日田市水道事業基本計画との関連を図りながら、「安全・強靱・持続」の観点から策定しています。

## 1.3 計画期間

日田市水道ビジョンは、水道事業の将来あるべき姿の実現に向け、「日田市水道事業基本計画」と併せて、令和13(2031)年度までの計画期間とします。

《計画体系図》

